



擁書樓日記

一

文化十二年

七月十八日



5756
1

高田早苗氏贈

擁書樓日記

文化十二年一歳在癸亥



七月 甲申 小

○廿九日とりの壬子とじんハ、せんのおとめと
 おん月とく木日とる。伊勢曆イセの尺ある
 日擁書樓のぬきは火のつぎはひのお
 きとく土倉ツクラのやまのうゝ萬巻
 あの中あの中のむすめとる。北史キシ第三十
 三巻、列傳リョウデン二十一の世説新語補セツコ十三の巻、
 豪爽篇コウサウヘンなる李誼リギのなとる。おん
 やしめ、標榜ヒョウポウは擁書樓の三字をと、字サの

Faint handwritten notes in the top right corner of the right page.

之則繁矣及吾邦神典紀事之籍雜
著撰述頌之冊益有精者粹者洪者
廣者玄者空者爛者約者要者妙者放
者蕩者點者刻者艷者華者澹者淡
者正而有度者促而無羸者卓犖而
漫者圓轉而格者浸焉渺焉邈焉者也
君堆其書惜器剪燭懇心獨讀之其
顏其息自有浩然灑然傾然怡然張然
莞然華然陶然悠然躍然以抗以對以
笑以教以愁以哭以怒以懼以憐以思以拈

以舞以顛以倒也且嗜好之深石子筆之著
之于文于詩遂有述作教十卷皆燦々如
煥々如輝々如綉々如縷々如滾々如洋々如察
如激如蘊如鬱如也若此乎可謂能備
能施能文能正也是所謂不做南面百城
而樂境之真者也記而傳之君子可以
與抗焉小人可以致慕焉亦一盛事也
恭は名鳥海は姓中陸奥國安部氏子
かづ字は仲然号を東陽了松亭了り
世稱は重三郎下谷和泉橋通也流町子

ある 儒名ももろ世のつづき今年 齡
四十四とあり

○二日る 輦のこをたぐみだりてそ風を
げしりりもろ 藤原三郎 藤原 書
梅のれよりそもんきしりぬ

○三日 晴平 由豆 流がたしり 延喜式をよむ
由豆 流世称は岸 本 讚岐号を 権園といふ
和漢の 権人といふ 著書あり 天下に 流布は
しり 流世 なる 君の 流屋 鋪子 住て 流世を
流世 流世 といふ 本居 宣長 流人 といふ 論

国名義考の二巻を著す

○四日 晴午の付むり 鳥海 系まぐて 女 ぬ日
隅とぶり 白銀町 一丁目 子 ありあり
織錦 齋 先生の 門子 今年 齡 七 七
より 近頃 酒井 讚岐 守 君の 名を ばい
りりて 世 稱を 大隅と 改む 字を もまぐ 大
隅とぶり 白銀町 一丁目 子 ありあり
○四日 晴午の付むり 鳥海 系まぐて 女 ぬ日

のくまよ了阿法師北慎言平由豆流など
おつきてあまきり了阿法師は浅草黒
舟町の村田某よ煙の官屋の二節子
しごともやうせとそしきして法師よなぬ
佛よせよ秀てをよく敵たよんたよ
かちよよの書よんしんろり
東叡山の北のつも坂あし一町目とりへる
あよかりよあれ庵をよあし書あまの
あぶらしそぶかよぞあまふしやんた
北慎言は新橋よりよんある家根屋よ

世称を三左衛門号を梅園よ静庵
しごよるも今世よぶしんろりの博識先
生よりあし

○五日晴南風りよんげー辰の時ぞりよ
鳥海慕きより己の時ぞりよ正木千
幹権書梅の歌よんろ短冊もよぬ
あよの峰よんよの海もよぬのみ流く
や外のあもひつらん今日は金沢町
なる画婆柳之の家歌の稽古會よん
しごよんろりあし余此歌よんろを

えつゝもはのほつひがまがどらもあまの
けつゝもはのほつひがまがどらもあまの
のまがどらもあまの文前人なりぶやあて歌負
く姓のまがどらもあまのらつゝの瓜は
とらつゝのまがどらもあまのらつゝの瓜は
あまのまがどらもあまのらつゝの瓜は
日くもして片岡寛光の詩よあまのらつゝの中
井敬義の子の名はなほらつゝのまがどらもあまの
らつゝのまがどらもあまのらつゝの瓜は

先は村田^{ナカノ}並樹^{ナカノ}の門人よつゝの歌のまがどらもあまの
らつゝのまがどらもあまのらつゝの瓜は
外神田^{ウチノカミ}仲町^{ナカノ}三丁目よ住て世祿を仁
左衛門^{サエ}とらつゝ

○六日了阿法師、権書樓の歌よと短冊も
つぎつぎ

日也のあまのらつゝの歌のまがどらもあまの
あけつゝのまがどらもあまのらつゝの瓜は
は法師^{ハフシ}とらつゝのまがどらもあまのらつゝの瓜は
村田のまがどらもあまのらつゝの瓜は
書樓の歌よと短冊も

きこえて世よりやしらぬやなつとま
るつゝもあはるあはるは本回游清のおな
じ歌のおもひもよふとあはれ

あはれおもひもよふとあはれ

あはれおもひもよふとあはれ

あはれおもひもよふとあはれ

あはれおもひもよふとあはれ

あはれおもひもよふとあはれ

あはれおもひもよふとあはれ

あはれおもひもよふとあはれ

清は伊豫お山屋の藩邸にけの音陽古
屋先生よりうたがいて後子織錦齋
大人の門よりうたがいて後子織錦齋
和漢の師と余もあはれおもひもよふとあはれ
ある友こそぞ

○日晴島海島まぐさぬ大穴佳行菊池桐
孫大田草かぐさ擁書樓の詩はくくくおもひも
たり大穴佳行の七絶肉陣妓園家之次
一朝轉眼惚成空初知南面百城樂真
在樓頭萬卷中桐孫の五絶至樂誰消

文書中南面王會に志雲暖勝擁
萬姫善大田軍は不思王后貴何假百
城高孝標菅氏女李謚丈夫豪名ど
桐孫もは讚岐高杉
彦の藩臣号は丑山世称は左大夫一町堀坂
本町子家ありてその名世よきこゝを大元住行と
一奴の詩人て大田軍世称は直次郎もと
後象なり今には忠支配勅定なるめ
博識の名天下にふるき一号をも南畝
よも蜀山人よも香花園よもいよ駿河臺大

田姫稲荷の前よあめよ近年新六十七
府中よ所宮の神主猿渡近江よ下ふめ
父は猿渡末女とらむ今には信濃よまづり
とぞ社領五百石の内三百石はみづり領
利の二百石を福屋社人別所きなむ配當
や

○八日晴猿渡近江まづりあゝ屋代弘賢あ
りしと近江よとらむ今には信濃よまづり
名は盛三子父信濃名は盛房藤原氏とぞ
吾妻鑑子猿渡藤三郎とらむ

了海野壇齋盤瀬醒盤瀬百樹たど
権書楼の画うきとおそやう壇齋は板倉
裁中守屋の家をうせ移を東蔵しといふ
今はちどて詩画のわきまを盤瀬醒世
移は傳藏京橋銀座一丁目にあわて京
屋の山東老店より煙草入をうきま
アはひきき戯作雜著を好て一のりを山東
京傳より百樹はその弟うき号を京山
くぶ家刻をもとせ世よそ下もかきけは
右あが

○九日平由豆流うきうて近喜式をいひ平村
佛庵やうきおききり
うきうきの中の下平あきけこそあ
らうきおきうきのおきうきこれお屋をよあ
なるうきうきうきうきうきうきうき
か

○十日晴了阿法師盤瀬醒盤瀬百樹たど
きうきうて隨筆目録を編輯し盤瀬兄房
は安齋隨筆をうきうきうきうきうき
記者浪浪話をうきうき午のけうきうき
原

正臣権書樓の乳ダウ 旗母もきあ

も城志るしづもかどたうぶのさう

らのうまふんくひてぞくくしつめ

正臣はもと大炊御門オホヒ 右大臣家よけつて山

本大膳権亮といひけが今より十年あまう

ちりー江戸よふくぶく織錦オリのよきとひ

まなび歌のまややくかたうしりぬ

号は清後字シ 欽若キニ 栢味カキ 曾屋ソウヤ 横町ヨコ

ちあきり日のるよ片岡寛光カタノ の乳ダウ

の乳ダウ ちあきり

まびりあまのあれはきあふ

んさくくくぬいしりぬコシチヤ

まひり今日イは栢橋カキの万八屋マンハチヤの料

理茶屋チヤの舒嘯シュウ 深儀フカの書画シヤウガ 松會マツカイ

のよきまきまきマキ 素真ソマ 馨カスミのまきもるこひつる

まきの乳ダウの深儀フカのまきマキ 栢カキ 旗ハタ 子のコ 折オリ

櫃ツツ じぎげきしりて出席デシヤクをこふまき

余ヨのあまあア 孫ムコ づるズル 玄ソノ 厨ク の取次トリヂ 壺ツバ じ

清シヨウ 玉タマ ちりぬチリヌ ちりぬチリヌ ちりぬチリヌ

があやわアヤワ ちりぬチリヌ ちりぬチリヌ ちりぬチリヌ

があやわアヤワ ちりぬチリヌ ちりぬチリヌ ちりぬチリヌ

とほはあまのしほはくはくし

○十二日甲子ありあけの談よりあるありふ又

の甲子のるまで天氣ありけりなりしとて

しほはあまのしほはくはくし

壁子大黒福神の由りしとてけりし神酒

二股大根(丸)炮製(丸)飯菓子などあり

らやえ福をいのりしとての世にたりし祭

りそと因よりあづき今の俗言より月まじり日

まじり某もあづきどりあぢいといれまつりの

略語をいふと係設くくんとあづきといふ

二日産
はまきまこ
えいごうし

○十三日暗吉田長俣村田のたせきよりあぢい

がひいて午の鐘はくしとてあぢいありあづき長俣

は加賀の藩醫より阿蘭陀子ありし日

本橋通四丁目の横町上横町子ありし日

く見て平由豆流が許より擁書檣の記を

あておこしありし其文よまづつてあぢいあり

たうどのといふは月をもとあぢいあり

るはあぢいありあぢいありあぢいあり

しほはあまのしほはくはくし

とせしめりしあぢいありあぢいあり

野長子りあひぬ長は出徒衰え世稱をハ
百舌魂を梅塙としし和漢のさえはくもて佛
字よさうと名あり下石煉塙小路よありし
~~正木千幹~~正木千幹があをとりてんはく
ててかつしぬ今日の片是寛光がまよりせう
そこしと頼名所集松葉名所集など
かりよあをとりてんはく村田のたせ
子もとりてんはくそこありしよか
其の時よりしあ貞徳文集の抄録しよ

今俗おのあるきよ沢山しりしは
九月廿一日状よ卓散卯月十三日状よ沢山六月
廿三日状よ卓山がどちし
菊酒焼酎義淋耐おる自異国来るよえ
るば高時まで中国製の焼酎義淋耐はな
りし
○三月廿九日状よ田勝とありし今し
あしあまし小勝利やしりしは
状よ唐用の籍えあ大和用よしりしは
○五月二日状よ揚擗えあ○肝薬とりしは
今世派をやくしりしはあなド五月七日状よ

二日状九月廿一日状十月十一日状極月十五日状な
どよみ見えたり ○五月十七日状掛字七月朔
日状掛字五月廿四日状掛字七月朔
たる三は款こりの注し ○六月廿九日状子私
宅名無佐狭くする頂妙寺、脇坊借、やふとん
ゆきし種、りより注し ○八月五日状子二掛、れ
月状、年状、なり、地、と、り、注、え、さ、ふ、今
あづしき物を、價、平、買、は、る、を、り、よ、お、り、
○七月朔、日、状、子、大、分、限、前、と、あり、今、分、限、を、
つ、り、あ、ら、き、こ、え、さ、 ○八月、日、状、子、五、分、限、を、

○十月五日、状、子、為、北、国、家、寄、懸、塩、引、難、を、仰、
鳴、倉、庚、申、始、り、十二月、朔、日、状、子、為、長、治、字、
寄、懸、法、船、卵、一、桶、寄、漬、せ、ま、一、鉢、注、し、
カド、見、え、一、宮、寄、は、今、り、よ、土、産、物、の、り、よ、さ、ふ、
此、倉、子、あ、り、た、る、
○十月、日、七、日、状、子、阿、濃、
し、浦、の、地、を、精、漬、し、天、菜、一、桶、注、し、
ふ、今、も、あ、を、殺、し、り、の、注、し、六、帖、の、あ、し、
あ、ま、の、注、し、朝、の、度、り、の、注、し、
新、千、載、の、り、よ、あ、ん、あ、こ、き、
を、り、よ、あ、ん、あ、こ、き、
を、り、よ、あ、ん、あ、こ、き、

モノカノハ... たる... 狂歌
堂真顔の市川團十郎... 仁木弾正... 粉... 本幸四郎...

た... だん十郎... 狂歌... 仁木弾正... 本幸四郎...

○十九日... 北慎言... 新橋... 大田... 狂歌... 仁木弾正... 本幸四郎...

たがよにおよしあつるころめつこも
秋もたもどくもつてやゆくとくはみ
やうりき又云大田守の權子孫のあはれおとせ
たよ

あつて一川のもちよふがむふやう
ひらききなるの好鳥又射止おの歌あり
うらうらとせえんせぬよるのちよきあ
くのもより後京極どののちもなつる金毛
和号集あつてとては——おの柳がは
集は 白河院も懐位、末後親政臣を

院宣撰之天治元年乙未 勅大治元二年丙申者夫
之げ集あつ不定也妻覽之やぬあ度尾緒之
初度道覽あ一書三宮ああ也

——のうもよまをえんは——とちよ
びよふうがひよのころん第方二度道覽あ一
書ああもあ也

このちちちよまをえんは——とちよ
まの張りうやうとくはあ世々ああ以上
二度道覽あう才三度妻覽あ一書あ
ああ之あ也

ちかぢいしのまゝなまのいひのいひのあはれ
と日のあはれなまのいひ

あはれなまのいひのいひのあはれ
かやうのいひのいひのあはれ
あはれ

あはれなまのいひのいひのあはれ
あはれなまのいひのいひのあはれ
あはれなまのいひのいひのあはれ

あはれなまのいひのいひのあはれ
あはれなまのいひのいひのあはれ
あはれなまのいひのいひのあはれ

あはれなまのいひのいひのあはれ
あはれなまのいひのいひのあはれ
あはれなまのいひのいひのあはれ

あはれなまのいひのいひのあはれ
あはれなまのいひのいひのあはれ
あはれなまのいひのいひのあはれ

○廿一日雨屋代取賢主の御より書梅の歌よ
みづあはれなまのいひ

あはれなまのいひのいひのあはれ
あはれなまのいひのいひのあはれ
あはれなまのいひのいひのあはれ

次第の校本と大鏡の古写本とをかりし
みし村田のたぢか子ごもと勅撰所和
歌抄出二冊とやしの年の見ゆらる大木
豊國あまのあまごもとよぶ曲豊國は文化三年の夏
の頃よりの相識なり今年 齡五十七歳と云

○廿二日晴今日いよつあや高田友清のあ
そみの忌日なるは太師の源氣與叔次
師の幸次師清年とて深川靈嚴寺
中なる観明春子のあまごもとてやしむ
友清のあまごもと世孫は茂左衛門より全

六世の祖とて室曆九年三月廿二日よる
がうらひぬ午の時とてみ平由豆流まで
事の後撫育とてみりの鐘ヤとて
きるゆる頃鳥海素ごもとて

○廿三日あのけしあとてたなとてあの時
でうらあとてやとてあ
なりてはああのあとて思
頼あ主のあとてあとてあとて
物語二冊とてあとてあとて
うらとてああとてあとて

いふべき已時詩平由三流がふとまづいふ
予の鐘片くたるこゝん福基島子うらわめあ
島子はあま〜陸月（陸月）の北日よそであてあ
して歌がもよみ〜の今りし二巻を
たふと〜の三十三巻なり〜の北慎言
が〜の書楼の歌を北條方限
帳一冊とを了阿法師も〜の〜
まの〜

あま〜の牛の汗あま〜のま〜
あま〜のま〜のま〜のま〜
の詩

白氏文集を〜の〜
あり〜のあま〜のま〜
せん

○廿四日晴屋代知賢主の詩イリヤ〜
あり擁書楼と〜の〜の〜
あり〜のあま〜のま〜
傳二十一李謚傳（傳）七子謚字永和方（方）好
學子周覽百氏（百氏）初師事（師事）小學博士孔璠
數年後璠還就謚請（請）業同門生為之
詔曰書成藍藍謝書師何常（常）在明經

きりあがりもさしてふ〜あぢあぢい〜
うな〜り〜て刊行〜し〜せえ
の目めの〜と〜なん〜
〜宝物
集三の巻のうゑなりわの〜
説は才しなきたまものこと〜
〜阿法師語云正木寺
幹は〜元木阿彌モトノモクアの弟子〜狂歌を
〜狂歌堂真顔コガ〜書
は中川由義を師〜後橋千蔭チカゲ

義義ギギな〜の〜を〜持は大河行カハノユキと
で〜近頃チカタ遠雄トホ風カゼの教をうけて
〜狂歌キョカ〜
大原久知オホハラヒサチ〜
〜の文を山本宗信ヤマモトムネノブ〜
○廿五日晴ニハツヒ夜ヨよりりて雨アメ〜
和賢主ワケサネの詩ウタ〜品シナ字ジ義ギ〜
北キタ撰セン言コトまぐて〜
〜書シヤク梅ウメの〜
丹ニ〜

やうそこつとらん片岡寛光子白氏文集
とありし中竹ざうり平由臣はせん
せん後歴をもしおろりしうよの四こ
をいづくこんちりめ

○廿七日うりあふらびんアヤめんやうそ
いびり阿法師まごまよして朝野群
載まよふふしめあれたたうり鳥海
若きしとせり小谷三思の詩よあやうそ
ありあめごらな常陸之水海道とり京
えん道を説くしとく三思世福は庄

兵衛武蔵国足立郡鳩ヶ谷の里人ニ道德
をもてせよとて坂東の人民こころの学風を
さうしよよ万人よあふらりそ中竹ざうり
うり海野権斎がうりうりそん了阿
法師は江戸名所記七巻をか

○廿八日晴北嶺言磐瀬醒磐瀬百樹三人
しん書擲三基をもめあこもあ平由臣
流序是寛光がむつとありやうそこあり
横田家翁太田翠がかりあうりそんお
の丑のそびむうふい可堀儀部大神宮

鬮子火るあり

○廿九日晴屋代知賢主片倉元周がもと
どつちをいそこつていそいそ元周は相模国鎌倉
人まをては神田永富町にああかん号を鶴
陵よりいそ醫局をももて天下よこて
晁あき世稱は文五郎号を寫山
橋より下方和泉橋通にああかん号をももて
名をもいそいそ今年下野お十三日かえり小谷三
思きいそいそ書かゝるいそいそ木綿二もも
とめいそいそいそいそ

○晦日晴今日権書梅原中守の密をいそ

いそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ

屋代知賢主 午のいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ

梅田あき袋衣 午のいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ

大田翠 未のいそいそいそいそいそいそいそいそいそいそ

谷文晁 申の時未三時帯

片倉鶴陵 未の時未三時帯

菊池桐孫 申の時未三時帯

岸本由豆 午の時未三時帯

山本正臣 申の時未三時帯

藤原彦曆 未時未至時歸 惠解第一筆

本同游清 未時未至時歸 惠短冊三十枚

正木千幹 未時未至時歸 惠半切紙百枚

鳥海某 未時未至時歸 備前年春年四七枚

磐瀬醒 未時未至時歸

磐瀬百樹 未時未至時歸

中村仙庵 未時未至時歸

片是寛光人ちそこいふつまうこお筆二

管と あけ 志田佐吉京某 あけ けつ

あけ 三思の あけ ありの あけ

んうら あけ 海を あけ かつ あけ くの あけ 舟 あけ

うら あけ 横田袋 あけ 舟 あけ 牛込袋 あけ 所 あけ

あ あけ 先 あけ ち あけ 力 あけ の あけ 隠 あけ 原 あけ ち あけ 世 あけ 孫 あけ 孫 あけ 兵 あけ 衛 あけ

い あけ 孫 あけ 原 あけ 宗 あけ 固 あけ の あけ 門 あけ 人 あけ ち あけ 歌 あけ ち あけ ち あけ ち あけ

今年 號 あけ 六 あけ 十 あけ 七 あけ

九月 丙戌 小 文化十三年

○朔日 癸未 晴 小 谷三思 作 しのめり ぬき
月 風 ぞ ちよ しく ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ
うら 大田 翠 ぎ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ

○二日 早 霧 しく ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ
ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ
冊 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ
ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ
豆流 島海 茶長 舌川 氏河野 大助 ちよ ちよ ちよ
ちよ 大助 は 秋 元 田馬守 君の 公用人 ちよ

左衛門 佐

下谷池の齋なる君の下屋あきまあり日の
くまじりよ大木豊固るあをさくま

○三日晴書林英聖平吉續日本紀の校本を
とくまじり今日平由豆流村田のくまじり
しきりよおよ入て割願氏霞年と姉の
花形由利子酔一折花形由利子酔一折由利子の
花形様の書名あり又谷文晁の画と字て文
英と号し

○四日晴今日はくまじりいもびりあやめ
福屋鳥子くまじりあやめくまじり山本

正長まできりて十七日歌合と席の
とくま

○五日晴即病石田篤鳥海茶素其馨秋
了阿くまじりくまじり石田篤世稱は鍵屋
半兵衛金吹町はあわん

○六日晴即病横田袋翁福屋鳥子北模
言くまじりくまじりくまじりくまじり
鳥海茶素くまじり

○七日曇外病
○八日晴即病岸本由豆流村田のたきみ

つやうきさきやうり 柳の五の付ぞうり 飯田町
二合半坂出りあり

○九日曇り臥病

○十日晴らんちのふくたけしるよやあきあり

あきばなす阿法師 繁瀬醒 繁瀬百樹など
もく例の随筆 目錄の編輯わり 酉の付
むらう鳥海素おまてきぬ

○十一日曇り臥病 古澤露升まてきぬ

○十二日曇り日くしき雨ありしむな今りしなる
痛しうりしり 平山流がしりしりしりしり

あり唐本 屋庄助まてきぬ 大田學が

しりし北史まてきぬ 鳥海素おまてきぬ

杜氏通典と礼通考のしりしりしりしり

○十三日雨午の時あり晴りしり 知賢主のしりしり

六百番哥合の古本まてきぬ 鳥海素

荒井以謙まてきぬ 以謙は武蔵国

多摩郡 世田谷領 宇奈根村まてきぬ 彦

根彦の代官の今宵 権書 梅子酒くら

うけ 何れもまてきぬ 以謙がまてきぬ

かやうしりしりしりしりしりしりしりしり

○十五日晴神田明神祭此筋遠越極外の
 榎倒^{クサ}の棧^{サキ}をまきしけんおん^{モリ}らん三十六
 のせり車^{クルマ}おの富の財より明神の社^{ヤシロ}つら
 りとくみんあ^イこの^ウの^ウの^ウ
 らく^コあ^イ祭^{サイ}の^イ番^{バン}附^ツり^ツよう^ツつん
 圖はくがき^ツ

文化十二年亥九月十五日

神田大明神御祭禮

壹

大傳馬町

この町に廿五軒あり二十軒あり

二

南傳馬町

この町に廿五軒あり二十軒あり

三

壹丁目

おきな人形町

四

同二丁目

ゆうじん形町

五

なぐ町

ほうらんの町

六

通きん石町

おん養の町

七

すむ町

ほんの町

八

同二丁目

まの町の町

九

きんを町

おんを町の町

十

三河町

ほんの町

十一

としま町

おんを町の町

十一

湯一軒

おんを町の町

附 祭

湯

よこし 弓えぬえど板

二丁目 七福神の池
イヤ 方太の
と下けいこ太の

全法町 柳の池

柳は 岩井町 ありこれの池
元いそ井町

橋本町 二見の池

同二丁目 浦の池

佐久間町 湯の池

同二丁目 湯の池

同三丁目 湯の池

十一
十二
十三
十四
十五
十六

十六

富松町 湯の池

十七

久右衛門町 湯の池

附

祭

二丁目 湯の池

十八

多町一丁目 湯の池

十九

同二丁目 湯の池

廿

永富町 湯の池

湯の池

大かき

廿一

堅大工町 湯の池

廿二

園口町 湯の池
弓の池

北三 明神西町 僧らぞうのり
 北四 新銀町 ともきりのり
 北五 川井新石町 ぼんしのり
 北六 ちんろはや町 ともきりのり
 北七 かぢ町 二丁目 三条小鍛冶
 北八 え乗物町 ちんろはやのり
 北九 よこ大工町 ものよりのり
 廿一 ちぢ町 キドのり
 廿二 三河町 四丁目 西内若祿のり
 廿三 赤だいのり 仁田の四郎のり

廿三 皆川町 月まひきりのり
 廿四 ぬい町 猿のり
 廿五 白うぶ町 えびまのり
 廿六 杉田町 考録のり
 通り 是げまのり きやうあんど
 市 ちんろのり ぼんろのり
 祭 富本連中 ちんろのり
 祭 ちんろのり ちんろのり

神輿ニ社

板元 馬喰町 二丁目 木村屋 ちんろ

通旅籠町の市用はこよのり

くし富孝中書前大夫の喜頭よりて世に
者うあやむとすのゆるめて群衆のてらむよとの
許やうとをこくふよん御用奉りしは
例のあやひ町なぬもぐ一町へ金七十両
をこまにすしをもめせもくこ今年には
三服屋の大井が三百両あつて一うる亀屋
とりごぶの百両あつたの金もすもめせ
その受い一しとりし御用奉りしは
つしあの町内よりりおて上覧坊へ
もき明神の社はあつてよまぬ筋道の残

あつては是れとかなめせもき古澤守
子昨日の日のくぬいあつてつとめりあ
いしつと今日お露井みづりつとめりあ
あつてあつてぬいしつとめりあ
あつてつと鳥海茶あつてつとめりあ
○十六日晴風あり申の付よりつとめりあ
あつてつと入つたぬるつとめりあ
あつてつと左衛門村田のつとめりあ
明察孝其馨岸本由豆流河野大助
鳥海茶あつてつとめりあつてつと

とてしめづるの余のよき女はゆき
海野瓊齋唐本屋庄ハハとて
そ日くも上條昌太郎まぐさつ

○十七日曇この時ぞうし鳥海系
たしり未の時より藤原正臣の家
のの全よしきし新宅の祝よあを
始用とつこしを

今よりはらぐのよむよとみぬん
弟とてまぐさく受くむるる月次の
子持衣

秋は白ゆきの民がみづかみ唐
衣をばこししん探題よ奇秋
木並をとぬし

いづよ又ちげつん又もん秋のよか
しづべんみぢし

○十八日曇大田學ごうしよりやまこ
片倉鶴陵靈巖寺歡明法師やぐま
できぬおしりて雨し

○十九日晴河野大助古澤露井まぐさぬ
○廿日曇古澤安子片倉鶴陵ごうし

ひめ浮世お路百川屋まゝ画人雲潭一
書画拵會や一子南緯一序めんどてとて
いよいしり夜よりりて片倉鶴陵女しれり
○廿一日晴屋代知賢主のしよりせしそこ
あり曾我物語をわまるん唐本
屋庄八岸本三次郎太田佐吉などし
しり片倉鶴陵よりおきぬ鳥海茶や
いそこおきしり

○廿二日雨河野大助がしりやしそこあり
新剛氏霞年の姉おち子まぐてまぬ

○廿三日晴古澤露井石田篤がしり
そこしり鳥海茶藤原唐磨了阿法師な
どまぐてまぬ唐磨今年齡五十二とぞ

おいはまぶしりまてりおきまじ
あやこみじしりまらびはまら

しりあはく新うかまじ地あら今は
五十のめなむしりなむあやか
岸あり由豆流片倉鶴陵がしり文やりつ
猿渡信濃がしりまらやしりて蕎麦
粉二袋をとおしり

○廿四日曇り阿法師まで出らんおとまり
朝野群載とくわくを一つ鳥海茶福基
鳥子のもしよりやうそあつた阿法師
の談よ云迄頃かまらあつたよやうに
衣類せよやうしてけしそくのまのめい
りてそややうを清水瀧匠のまのかこの
扱かづしてぞあきあつたよのまげな
ば
そああつたおんまのまのまのまのま
なちのひりておんまのまのまのまのま

○廿五日晴屋代知賢主の許がうせりそ
ありゆがうり狩野永徳筆の富士の
画をふりて替をこふふ小右三思よあ
らんごうし福基鳥子北川真顔がう
又つうしん真顔がうしん権書梅
寺がうしあせり

月吉のあつたかどうもらんもい
くしあふあふのふつうあまし書櫃一
もあつて
まのちのあつたあまのあつたあ

さしやんおらるるれきごころも 磐瀬壺萩
原利中などいごもぬ利中世称は四郎
兵衛武藏多替 郎小山村の人し年々か
うし〜河川相摸守主まつつ〜漢
籍など好し今は田舎中〜ま〜
○廿六日曇中の時む〜雨し〜
いむしおら入るは車のこと〜
の富士の繪〜し〜や〜
あ〜し〜あ〜し〜あ〜し〜

ちよも〜し〜あ〜し〜あ〜し〜
阿法師まがさ〜て歌木奇歌集をよ〜
てつ〜つさは水無月の比〜り〜
他の書よ〜し〜あ〜し〜あ〜し〜
か〜し〜詞めぬ〜し〜あ〜し〜あ〜し〜
あ〜し〜し〜と法師のよ〜し〜あ〜し〜
よ〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜
し〜し〜え〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜

あはれひつゝおとせりしれそそやと
うき無し ねむりなむら

富平女史の字

是日臨上邪詠

| | | | |
|-------|-------|------|----|
| 豊島女先生 | 於吉女先生 | 子 踊 | 筆先 |
| 豊雛女先生 | 於金女先生 | 子 小仙 | |
| 豊仲女先生 | 於真女先生 | 子 政花 | |
| 豊高女先生 | 於哥女先生 | 於高 | |
| 豊亀女先生 | 於友女先生 | 於鶴 | |
| 豊若女先生 | 豊頂女先生 | 鉄ハ尾 | |
| 豊駒女先生 | 豊鶴女先生 | 宇多 | |
| 阿年女先生 | | | |

| | | |
|-------|--------|------|
| 駒重女先生 | 山年女先生 | 棒 天津 |
| 於兼女先生 | 山千代女先生 | 毛登 |
| 豊枝女先生 | | 以久 |

あはれ文英の命のちりーの簿を 岡田真澄の
あはれよ

书画會

九月廿八日 於浅草
並木巴屋 山左末の
楼上 石論晴雨

あはれよふとあはれよふとあはれよ
みれ多し ねむりなむら
あはれよふとあはれよふとあはれよ
みれ多し ねむりなむら

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title, in cursive script.

